

『千の風』を戒める

服部即明

日蓮聖人の法門は、一大秘法と三つの法門・本門の本尊・本門の戒壇・本門の題目ですが、戒壇法門は本尊の中に合一することであると考えられます。宮沢賢治は星空を大マンダラに見立てて後進の者も銀河の一つ一つに着座して法華経の常説法の法座に連なるべきと考え、『銀河鉄道の夜』を執筆されたと思われます。法華の行者・信者は銀河にこそ安座して常説法の法門を聴聞しなければならぬのです。

寸劇 「地涌のボサツは星座に」(三十分程度)

作 服部即明

一場

三角頭布に白装束の数人が両手を広げ、風に舞うように旋回する中、「千の風になって」を全員で歌う。

二場

三角頭巾に行衣を着た数人の亡者が円座になって話し合っている。

- a われわれは風になって吹き渡ってはいけないうんじやないの。
- b 人を、慰めたり、励ましたりしているようだから、全く駄目とも言えないのかな。
- c 死者には、なんの力もないんだから、しかたがないけれどもね。
- d 生きてる人たちの思い出の中に生きてる人ばすばらしいと思うけどねえ。

e 偉人伝にのってる人は不滅かもしれないけれど、普通の人の思い出なら、せいぜい数十年こつきりでしょう。

f 神にまつられたり記念碑になったりすれば、後世に残るんだろうね。

g たいていの人が、あれもやりました、これもやりましたと自己満足しているだけで人の記憶に数十年残れば良いところでしょう。

g 犯罪者は論外だが、普通の人は、ただ生きていたというだけではないのかな。

i 結極、風にでもなつて、ふきわたるよりしようがないんじゃないの。

j 家族の為に一生懸命に努力し、家を守ってきたのだから、先祖代々の墓に入って、孫子末代まで見守つてやらなくちゃね。

k そのためにお墓があるんだから、風になつて吹き渡つていちゃいけないよ。

i そうですよ、風になつてふきわたるような後生はだめですよ。

m そうはいっても、独り者はどうしたらいいの。これからは孫子代々家を守つてくれないよ。

n それはえらいことになってきたねえ。法華経にはどうお示しになっているんだろうね。

m あのね、法華経は教ボサツ法といってね、ボサツのためのボサツの修行法を教える法だつて聞いているよ。

o ボサツ・ボサツつて何度も出てくると、混線しそうだね。ボサツの説明をしてよ。

p ボサツは、自分のことはあとまわしにして、ひとのことを考えて奉仕する人のことですよ。法華経というのは、そういう人になろうというお経なんですよ。そのエキスパートが、地涌のボサツですよ。その数が六万恒河沙というものすごい数なんです。このあたりのことは、よく覚えていきますよ。

三場

大マンダラを前に信行会をしている。唱題行が終わって円座になる。

a お上人様、今日は千の風について教えてください。このまえ同行のものでいろいろ話しあったんですが、千の風について、いろいろお教えてください。

b これからの時代、子孫がいなくなつて、お墓を守れなくなつてきますよね。どうしたらいいんでしょうね。

c やっぱり、風にもなつてふきわたるより仕方がないんでしょうかねえ。

導 それは重大な問題ですね。皆さん宮沢賢治さんを知っていますよね。あの賢治さんの考え方はすばらしいですよ。

a 童話や詩をたくさん書いて、三十代そこそこで亡くなつてしまつたんですよ。

b 人間と動物、人間と植物、人と自然の調和などをテーマにして、ほのぼのとした童話や詩をたくさん残していますね。

d 「銀河鉄道の夜」は、教科書にも載っていましたから、知らない人はいいでしょう。

導 「銀河鉄道の夜」は童話としてのすばらしさだけでなく、私たちの信心の大本を考えるうえで重要なヒントを示してくれているのですよ。「銀河鉄道の夜」は賢治さんが何度も推敲し、まだ未完なのだという人もいます。最後の命をかけられた作品だったといえますね。

f それほどの作品ということは、一般の人々は、余り知らないでしょうね。賢治さんが、法華経の大信者だったことも、一般の人は知らないでしょうね。

h ところで、「銀河鉄道の夜」と大マンダラとは、なにか重要な関係があるのですか。

導 風にならないで信心決定して不動心に住する根本ですから、しっかりと聴いてくださいよ。

i それでは、心を引き締めて聴聞いたしましょう。

導 おマンダラ様の重要な点は、いろいろありますが、今日は、「銀河鉄道」との関連に絞つて、死後の問題を考えしてみましょう。星座の駅で、乗つたり降りていったのは、なぜなのでしょうね。乗る人は、死んでから落ち着く

先へ行くために乗ってくるのです。十字架の光り輝く駅で大勢の人が降りますが、カンパネラとジョバンニは降りません。検札官に切符を見せると、「これはどこへでも行けるすごい切符です。」と言われます。四つにたたんだマンダラだったので。

法華の行者は一人々々どこかの星座に座って、お釈迦様の常説法の法座に着座しなければなりません。一夜のうち一部八巻二十八品の説法が続けられているからです。その法座は六万恒河沙というすごい数のボサツが着座できなければなりません。無数の星座は、まさにうつつけの宝座になりました。

i そうか、普通、宝座は宝樹下と決っていますが、星座を利用するのは賢治さんらしいですね。光で荘厳された宝座なんてすばらしいですね。法華の信者は夜毎説法の様子を拝んでから、寝るようにしなければいけませんね。賢治さんは大空を大マンダラに見立て、すべての人々をボサツの誓願に導きたいと夢見ていたのではないのでしょうか。

j そういうことで「銀河鉄道の夜」を書かれたんですか。賢治さんが法華経の信者だったことは知らない人が多いんじゃないでしょうか。

l いやあ、これを知った以上は、風になんかなってはいられませんね。

m みんな銀河鉄道に乗って大空に散らばろうではありませんか。

導 昼間はお墓で先祖様と一緒に陸みあい、子孫を見守り、夜には銀河に着座し、世の中の安定と繁栄とを祈る。

j 夜を待って銀河に座る暮らしは素晴らしいじゃありませんか。

導 それでは、格があがったところで、唱題行をしましょう。

四場 唱題行で終わる。